



JR東海労への批判ならざる批判 悪意に満ちた山口委員長挨拶①

業界誌「ACCESS」No.714（2月21日発行）に、JR総連第48回定期中央委員会の内容が掲載されました。山口委員長挨拶は、全体の4割をJR東海労問題に費やしたことが記載されています。まさに異例です。よほどJR東海労が憎いのでしょうか。記載内容は、事実を歪曲し、労働組合とは思えない、JR東海労批判の内容です。

山口委員長は「JS労は、組合員の名前も明らかにせず、会社から労働協約の締結も拒まれ、とても組合員のための組織とは言えない組織となってしまいました」と述べました。ほとんどの労働組合は、会社に組合員名簿などを出していません。勿論、JR東海労もそうです。そして、産別に対しても組合員名簿などは出していません。組合員氏名非公開は、組合運営の常識ではないでしょうか。非正規労働者が組合員であることが会社に知れた場合、雇用や賃金など不利な扱いを受ける可能性が大きいことから、氏名非公開としている労働組合があるのです。

山口委員長は「JS労は組合員の氏名を公表しないと会社との信用がなくなる」と述べました。それ以外に、氏名非公開がダメだという明確な理由はあるのでしょうか。JS労を否定するだけのために、氏名非公開を問題にしているに過ぎません。

またJS労は、労働協約の締結を拒否されていることは事実ですが、そのことがなぜ組合員のための組織ではないと言えるのでしょうか。理由を述べてもらいたいものです。労働協約の締結を拒否されれば、通常なら会社を批判すべきです。JR総連はなぜ、労働組合の側を批判するのでしょうか。労働組合を悪者にするとは、常識を疑いたくなります。JR総連は、どちらの立場に立っているのでしょうか。まさに会社の立場と言うしかありません。